



- 巻頭エッセイ「リーダーを考える」..... 1
- 第21回「英語の教え方教室」勉強会案内..... 1
- 「英語の教え方教室」勉強会報告..... 2
- 第17回勉強会、第18回勉強会..... 2

- 第19回勉強会、第20回勉強会..... 3
- 授業の玉手箱「聞く力」..... 4
- 書籍紹介『開国と英和辞書一評伝・堀達之助』..... 4
- 教員免許状更新講習3案内..... 4

巻頭エッセイ **リーダーを考える**

中垣 芳隆

離合集散、春秋戦国時代さながらに、多数の党の乱立、当選優先のごとく党派を渡り歩く候補者が散見されるなど、喫緊の課題山積の我が国の政治の先行きに少なからず不安を抱かせた衆議院選挙も終わりました。

その陰に隠れていましたが、教育の分野では、昨年末にTIMSSの結果を報じる記事がありました。小学校4年生の算数・理科の点数が上昇したことを受けて文科省参事官は「新学習指導要領など学力改善に関する取り組みが少しずつ成果を上げてきているのではないかと自信を示したとありましたが、「ゆとり教育」の下で学校生活を送らざるを得なかった世代に対しての一言の言及もないというのはいかがなものでしょうか？ある文部官僚がかつて、「政治と世論の顔色を気にしながら帳尻を合わせるようにその場その場で絵を描いている」と嘆いたそうですが、その典型を見る思いがします。

この方を振り返ってみますと、学校組織の機能化を図るための新しい職の設置、給与と連動する教員評価、免許更新制、校長がリーダーシップを発揮しやすいようにと、職員会議の位置づけを始めとする、管理職の権限強化施策など、政府はさまざまな審議会をつくり矢継ぎばやに「教育改革」に関わる施策を打ち出してきました。しかし、10年余りを経て、日本の教育は良くなったと言えるのでしょうか？

現職の校長先生方と話しても、「学校が窮屈になりました。」「先生方に余裕がなくなったように思います。」「との声が聞かれます。競争原理の導入、短期的な評価に晒され、机の上で処理する事務作業が増加し、先生方が全力で子どもに向き合えなくなっている側面が伺えます。

管理職への昇任の状況についてみれば、東京都では管理職の多忙さが教諭の管理職離れに繋がっている結果、主幹教諭が合格すればすぐに副校長に任用する選考を開始したが、受験者数は合格予定者数を大きく下回り、合格倍率は、ほぼ一倍の状態が続いており、管理職の質の低下を懸念する声が高まっているとの記事が見あたります。

校長のリーダーシップが声高に叫ばれて久しくなりますが、どうも行政が求めてきたのはリーダーというよりは優秀なマネージャーではなかったのかとの思いがします。学校は「生きもの」とよく言われます。校長の器量によって元気にもなれば沈滞もします。

リーダーシップについて語られる時、よく「リーダーとしての器の大きさが組織の盛衰を決める」と言われますが、人を率いていく力の大きい人が率いる組織ほど、人々は可能性を開かせ、組織もますます隆盛していきます。一方、リーダーとしての天井が低ければ「天井の法則」と言われるように、組織の成長も頭打ちとなります。

では、リーダーに望まれる資質とはどのようなものなのでしょうか。温故知新と言う言葉に従い、まず、故きをたずねてみますと、我が国の戦国武将にもっぱら読まれた「孫子」には、将の将たる人間は「智」、「信」、「仁」、「勇」、「厳」を備えるべしとあります。

「智」…今風に言えば世の中の動きを先んじて読み取る力。
 「信」…心正しく偽りがなく、部下の信頼を集めること。

「仁」…思いやり、労り。これは人間として一番大事な、人を慈しむ心。
 「勇」…ことに臨んでよく忍耐し、危険を恐れずすべきことを行う力。
 「厳」…けじめをはっきりする厳しさのこと。
 次に、新しいところで、「世界のメンター」あるいは「リーダーのリーダー」として名高いジョン・C・マクスウェルの著書から引用してみます。
 「時流を察知する力」…幅広い視野で10年単位で将来を見通す力。
 「知識・情報」…将来に備えて事実関係や今後の動向を把握し、手を打つべきタイミング、ビジョンを考える力。
 「人を惹きつける人柄」…人徳ほど説得力のあるものはない。
 「良好な人間関係が築ける」…「適切な人たち」と「適切な関係」を築けること。
 「直感力」…部下のやる気、組織のエネルギーを機敏に察知し、バランスを取りながら人を動かす。
 「胆力がある」…部下を信頼して仕事をまかす。最後の責任は自分がとる。
 「課題と格闘してきた経験と成功体験」…この人についていっていいのか、を判断するとき、それまでの実績ほど頼りになるものはない。成功を重ねる度に「その人の発する言葉」に重みが増し、信頼が高まる。こうしてみますと、リーダーに求められる資質は、洋の東西、時代・時空を超えて不変のようです。

超高齢社会の中で様々な課題を抱える我が国の未来を担う子ども達の教育について、新しい政権の下で、今度こそ国家百年の大計にふさわしい、将来を見据えた確固たる文教政策を期待したいものです。さらには、子ども達の教育に責任を持ち奮闘される先生方と学校組織を預かっておられる校長先生がたを始めとする管理職の方々には、真のリーダーシップを備えられ、教職員にさまざまな甲斐を実感させていただくことを心から望むものです。

第21回「英語の教え方教室」勉強会(案内)
 平成25年2月9日(土) 14:00～17:00

- 「私の授業への挑戦」～スローラーナーにいかにか寄り添うか～
 滋賀県立伊香高等学校 坂本 美佳 教諭
- 「私が試みる指導法」～自己表現と学習者心理の理解に重点を置いた指導～
 三重県立名張高等学校 岡本 泰 教諭

滋賀県の新進気鋭の坂本先生と三重県の経年豊かな岡本先生に本年度を締めくくる実践指導紹介をお願いしました。坂本先生には持ち前の情熱で日々実践されている英語授業の成果を失敗や成功を交えて、岡本先生にはこれまで実践されてきた自己表現活動についてお話いただきます。

